

平成 30 年度 女川町

# まち活りーダー研修 報告書

日程 : 2018 年 10 月 15 日 (月) ~16 日 (火)  
訪問先 : 小布施町 (長野県)



## 目次

■研修の概要.....	1
■参加者.....	3
■スケジュール.....	4
■研修内容.....	7

## ■研修の概要

### 1. 小布施町について

#### ●小布施町の歩み

千曲川の舟運が発達した江戸時代、定期的な六斎市がたち、北信濃の経済・文化の中心として栄えてきました。幕末には、葛飾北斎や小林一茶をはじめ多くの文人墨客が訪れ、地域文化に花を咲かせている。

明治に入り殖産興業の中核となった蚕糸生産では、県下有数の養蚕地帯として栄えた。昭和29年11月、現在の小布施町が誕生した。

現在は、果樹栽培が盛んな農村として、美しい自然環境に恵まれ、人間味豊かな地域社会を形成している。特徴ある風土を活かし、先覚の残した文化遺産を継承、発展させ「北斎と栗の町」「歴史と文化の町」として全国から注目され、近年は「花の町」小布施のコンセプトを加え、年間120万人の人が訪れる町となった。

#### ●町の位置・地勢

小布施町は、長野県北部の長野盆地に位置し、周囲を千曲川など3つの川と雁田山に囲まれた自然の豊かな総面積19.12平方kmの平坦な農村地帯。町役場を中心に半径2kmの円に、ほとんどの集落が入る小さな町で、住民同士が互いに顔を知り合える相識圏が形成されている。

東部は高山村に、西部は千曲川を隔てて長野市に、南部は松川を隔てて須坂市に、北部は篠井川を隔てて中野市に隣接している。

<面積> 19.12平方キロメートル  
東西 5.7キロメートル 南北 4.8キロメートル



#### ●気候

気候は中央高地型気候区に属し、最高気温35℃、最低気温は-15℃と内陸盆地特有の激しい寒暖の差がある。また、年間降水量は約900mmで、全国的にも極めて雨量の少ない地域。特有の気候条件と、扇状地で酸性の礫質土壌は、りんごやぶどうなど味の良い果物と、色合いや風味に秀でた特産の栗を産出している。

#### ●人口・世帯数

人口総数 11,062人  
男：5,345人  
女：5,717人  
総世帯数 3,793世帯  
※住民基本台帳データ  
平成29年12月1日現在



注：総人口には「年齢不詳」を含むため内訳を合算しても総人口と一致しない場合があります。

資料：総務省「国勢調査」

(参考：小布施町ホームページ <http://www.town.obuse.nagano.jp>)

## 2. 目的

住民主体でまちづくり活動を進めている小布施町に出向き、まちづくり活動団体が行っている活動や運営方法など、女川町で今後参考となるものを視察し、意見交換を行うことにより、住民参加のまちづくりを实践するうえでのポイントやノウハウを習得する。

研修テーマ：住民主体のまちづくり、景観まちづくり、緑のまちづくり、遊び場づくり、地域資源の発掘

## 3. 研修内容

### ■「地域資源の発掘、景観・緑のまちづくり」

- ◇ 町の中心にあり、小布施の文化を伝える北斎館を核とした「町並み修景エリア」を視察。特産品の栗をはじめとした地域で生産・製造・販売される観光産業施設と小布施の自然が調和した町並みとなるよう官民一体で取り組まれたエリアであり、まち歩きを楽しみながら緑の多い街並みを見学。
- ◇ また、小布施町に伝わる「縁側文化」「お庭御免<sup>※</sup>」から生まれた、訪れた方々を花でもてなし、会話を通して交流を図ることができる「オープンガーデン」を訪問。
- ◇ 「花のまちづくり」の一環として花づくりに必要な技術など楽しみながら勉強できる「フローラルガーデン」、隣接する農産加工品が揃う直売所「6次産業センター「小布施屋」」を見学。

### ■「住民主体のまちづくり」

- ◇ 遊び場づくりの事例として「浄光寺スラックラインパーク」を見学。
- ◇ 元気に地域おこしをしている住民活動団体「いいだん会」、東日本大震災の復興支援で女川町と交流がある「日本笑顔プロジェクト」の皆さんと、交流会にて意見交換。
- ◇ 町内の女性を中心となって“市”の開催から活動交流拠点づくりをしている住民活動団体「おぶせエバーグリーン」の皆さんと意見交換。

#### ※お庭御免

小布施の街では「通り抜けできます」という文字をよく見かける。

小布施の人は「家の外はみんなのもの」と考えていることから、家の庭は誰もが通り抜けられる、という文化が育っている。これを街の人は「お庭御免」と呼んでいる。

## ■参加者

(50音順、敬称略)

No	氏名	所属	活動紹介
1	伊藤 俊	女川スラックライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本笑顔プロジェクトの支援をきっかけに、震災から現在まで小布施と女川の橋渡しをしている。</li> <li>・「女川スラックライン」発起人</li> <li>・女川町スポーツ推進委員</li> <li>・女川町のまちの魅力を発信する「合同会社モノコトビト」メンバー</li> </ul>
2	木村 繁子	あ～らだての小みちの会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あ～らだての小みちの会」発起人・世話役</li> <li>・復興事業で整備された高台住宅地の公園にコミュニティガーデン「あ～らだての小みち」を作る活動を通じて、新たに生まれたコミュニティで交流の場づくりを進めている。</li> <li>・他地区のガーデニングのアドバイスや、手作り品を販売する「お地蔵様の市」も参加</li> </ul>
3	熊谷 あけみ	あ～らだての小みちの会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手作りクラフトを仙台市善し銀「あけみの部屋」にて展示・販売。</li> <li>・自然にあるものから手作りでのものづくりを広めている。</li> </ul>
4	堂賀 光枝	ハーブガーデンプロジェクト ファミリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女川駅前商業エリアで、「Cafe ごはんセボラ」を経営</li> <li>・ギターを中心にみんなで歌って楽しむ「おとなのたまり場」を開催</li> <li>・保育士の経験を活かし、クラフト教室、料理教室の講師を務める。</li> </ul>
5	平塚 由紀	スポーツ推進委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あ～らだての小みちの会」メンバー</li> <li>・職場でもレクリエーション担当、スポーツを通して住民との懇親を深めている。</li> </ul>
6	松原 千晶	NPO 法人きらら女川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者就労支援事業所*「きらら女川」所長</li> <li>・平成29年度、宮城県より「優良事業者」として表彰を受けた。</li> </ul>

\* ) 現在、約20名の障害のある仲間たちが、女川の基幹産業である「水産加工」また「菓子製造」など、やりがいと誇りを持ち、日々働いている。

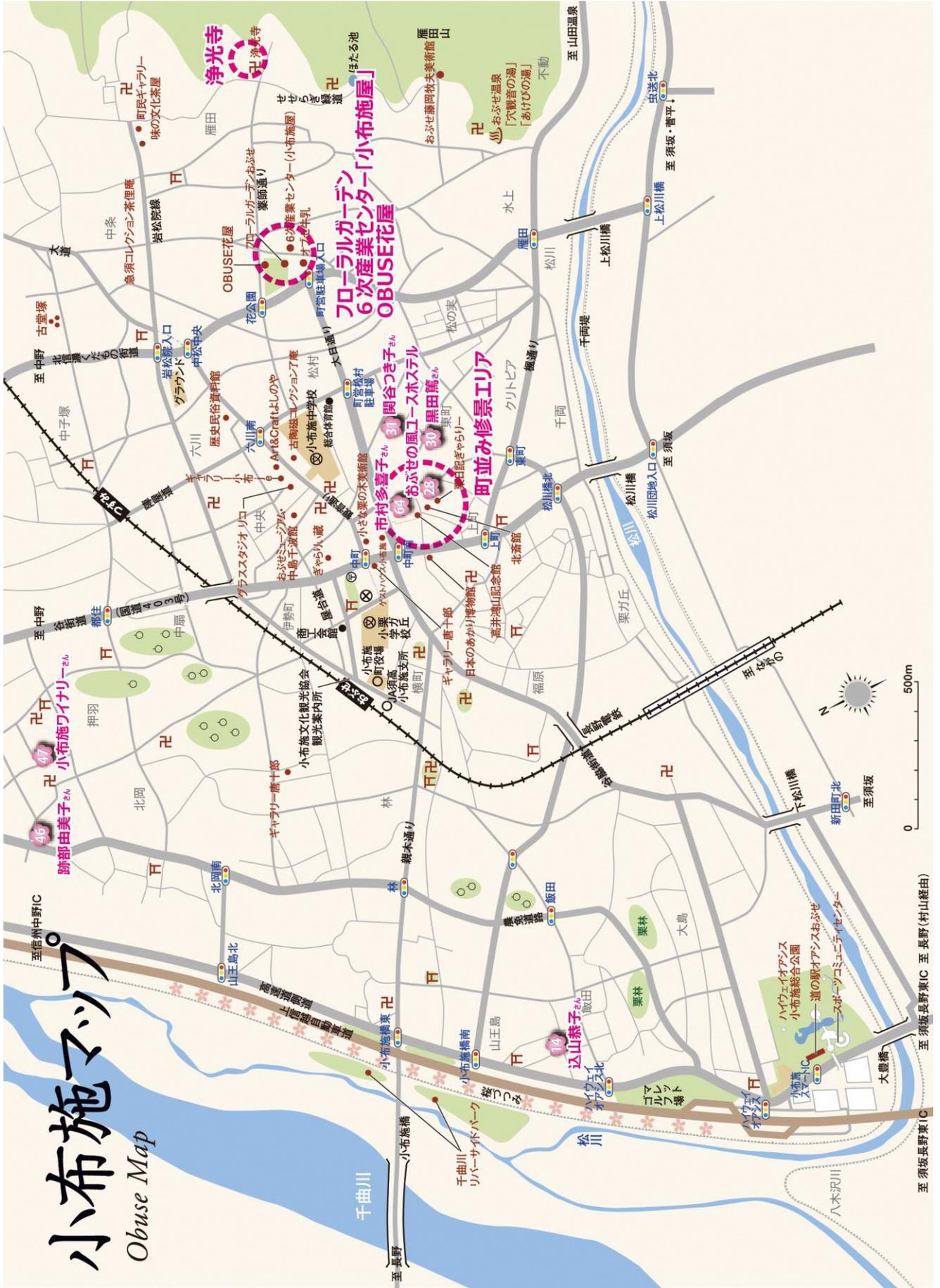
### 事務局

No	氏名	所属
1	山下 順	女川町復興推進課
2	宮崎 久美子	(株)千代田コンサルタント
3	吉田 道郎	(株)千代田コンサルタント

## ■スケジュール

時間	内容	備考
<b>10月15日(月)</b>		
7:15	集合：女川駅前 他	
7:30 8:50	—車移動—	
	—新幹線移動—	
9:30	仙台駅 発 (東北新幹線)	はやぶさ10号 東京行き
10:53	大宮駅 着	
11:30	大宮駅 発 (北陸新幹線)	あさま609号 長野行き
12:48	長野駅 着	
13:15 13:40	—車移動—	
13:40 13:50	【ご挨拶】 ・2日間のご案内人(深川氏)と合流	案内：深川悠さん(一般財団法人小布施町振興公社事務局次長)
13:50 15:50	【視察①：町並み修景エリア】 【視察②：オープンガーデン(中心部1)】	オープンガーデン【No64】訪問 市村多喜子さん ・徒歩による町内散策
15:55 16:10	—車移動—	
16:10 17:00	【視察③：浄光寺スラックラインパーク】	林映寿さん(浄光寺副住職・一般社団法人スラックライン推進機構代表理事)
17:05 17:20	—車移動—	
17:20	【チェックイン：おぶせの風】	オープンガーデン【No28】
17:50 18:00	—徒歩移動—	
18:00 21:30	【まちづくり交流会(夕食)】 住民活動団体「日本笑顔プロジェクト」 住民活動団体「いいだん会」 解散	

10月16日(火)		
7:30	・朝食	宿泊先：おぶせの風 オープンガーデン【No28】見学
8:30	—徒歩— 【視察④-1：オープンガーデン（中心部2）】	中心部のオープンガーデン オープンガーデン【No30】訪問
8:55		オープンガーデン【No31】訪問
8:55	—車移動—	
9:00	【視察④-2：オープンガーデン（北部）】	北部のオープンガーデン
9:15		オープンガーデン【No46】訪問
9:15	—車移動—	
9:20	【視察④-3：オープンガーデン（北部）】	北部のオープンガーデン
9:50		オープンガーデン【No47】訪問 小布施ワイナリー
9:50	—車移動—	
9:55	【視察④-3：オープンガーデン（西部）】	西部のオープンガーデン
10:15		オープンガーデン【No14】訪問
10:15	—車移動—	
10:15	【視察⑤：フローラルガーデン、 6次産業センター「小布施屋」】	・徒歩によるガーデン内散策 ・小布施のまちづくりレクチャー
11:30	【レストラン「OBUSE花屋」(昼食)】	
12:50		
12:50	—車移動—	
13:30	【視察⑥： 住民活動団体「おぶせエバーグリーン」】	
14:40		
14:45	【ご挨拶】	案内人：深川悠さん（一般財団法人 小布施町振興公社事務局次長）
15:00		
15:00	—車移動—	
15:30		
	—新幹線移動—	
16:18	長野駅 発 (北陸新幹線)	はくたか 568号 東京行き
17:26	大宮駅 着	
17:46	大宮駅 発 (東北新幹線)	はやぶさ 33号 新函館北斗行き
18:52	仙台駅 着	
19:10	—車移動—	
20:40		
20:50	・女川駅他 到着	
21:00	・解散	



注) 小布施文化観光協会「小布施観光パンフレット」より作成

## ■研修内容

### 【視察①：町並み修景エリア】

- 官民6者（事業者3・個人2・行政1）が議論を重ね、土地の交換・配置替え等により再構築して生み出された小布施堂界隈エリア。
- 昭和55～62年に整備事業が行われ、小布施を一躍著名観光地へと押し上げた散策エリア。

《学んだ点》景観の地域性・風土性、来訪者回遊と商業・賑わい、小布施まちづくりのコンセプト

《ご案内》深川悠さん（一般財団法人小布施町振興公社事務局次長）

○小布施は、江戸時代後期千曲川の船運で栄えた町です。

○40年前から官民一体でまちづくりを進めています。

○北信濃の経済文化の中心で賑わい、葛飾北斎も立ち寄る町であったことから画を展示する「北斎館」が昭和51年に開館しました。その後、北斎館を中心としたエリアで居住空間・商工業空間を併せた回遊できる界隈を修景していったんですよ。



## 【視察②：オープンガーデン（中心部1）】

- 1980年代から始まった「花のまちづくり」の一環として、個人の庭などを一般の方に公開する活動。
- 2000年に38軒でスタートし、現在約130軒。
- 小布施町に伝わる「縁側文化」「お庭御免」の相乗効果として、訪れた方々を花でもてなし、会話を通して交流を図るもので、官民が一体となって取り組んだオープンガーデンとしては全国初。
- オープンガーデンの参加者で企画・運営をしている。ポイントは「競わない」だから無理せずできる。「年間を通してみる事ができる」だから多くのお客様を迎えられる。
- 行政では、看板製作と冊子「“おぶせ”オープンガーデンブック」発行をサポートしている。

### 《学んだ点》

町並み景観への花と緑の寄与、おもてなしのあり方

《オープンガーデン No64：【和風庭園】小布施の町並みに配慮した花咲く樹木と和花の庭》

### 《ご案内》市村多喜子さん

- オープンガーデンは花が多いが、自分の庭は和風庭園。木や草といった緑の多い庭であってもオープンガーデンにしたいと思い参加しました。
  - 玄関脇に誰でも気軽に過ごしてもらえるようビールサーバーを置いています。縁側で飲んでもらって良いですよ。
  - もともと町の中心部にあって、庭を歩いて人が出入りする事は普通でした。人が通っても気にしない文化があったのです。家の中を覗く人もいますが悪いことはしていないので、気にしません。とはいっても、見てもらいたくない時、例えば、仕事で疲れて昼寝をしたい時は、戸を閉めますよ（笑）。
  - 植物を取って行く人もいますが、取っていった先で育ててくれていれば良いと思っています。
  - 個々人のお宅で楽しんで交流するのが小布施流のおもてなしでしょうか。
- ※NHK「小さな旅」“お庭御免”～長野県小布施町～10/28 放送に出演





【町の中心部】



**小布施の人の優しい気持ちを肌で感じる話をたくさん聞くことができました。**

- ー女川と違うなと感じたことー
- ・自分の家の庭を開放することに抵抗はない。  
(女川では自分の敷地に入ること嫌う)
  - ・庭を見に来た人におもてなしをする。  
(自分ができる範囲で)
  - ・自分の家に来てくれることを楽しんでる。
  - ・自分の家にあった花を採られても、どこかで咲いていればそれでいいかなど考えている。  
(この話は、ふつう自分の家の花を盗まれたら誰が持って行った、これから庭は開放しないと考えるものだが、それはそれでいいと思える心の広さに感銘した。果たして自分はそう考えることができるだろうか。)
  - ・見返りを求めている。  
(すべて自分のお金でおもてなしをしている)

**趣きのある町並みと人の温かさ。  
花で人を和ませてくれるまち。  
また、行きたい！と思わせるまちでした。**

- ・小布施のまちを歩くと、個人宅の庭先にオープンガーデンのプレートがあり、お庭拝見出来る楽しみがありました。そこに住んでいる人達も構えた感じがなく、快く対応して頂き、住民個々の花への取り組みがしっかり根付いているのを見てとれました。
- ・小布施の花のまちづくりは歴史があり、地区単位による美化運動から始まり、自然文化と景観の調和を大切にしている、官民一体となった花のまちづくりの取り組みに感心致しました。
- ・年々オープンガーデン軒数が増えていることは凄いです。

**小布施町には、何歳になっても体を動かし働ける場所(畑やガーデン)が沢山ありました。**

- ・オープンガーデンを見せてもらって、「来年はもっとキレイにするからね！」と、80歳を過ぎた女性から声を掛けられました。

**初めて訪れた小布施町。  
風情ある数々の建物、町並み、石畳にまずは目を奪われ感動しました。**

- ・「花のまちづくり」の一環で、個人の庭を公開しています。一軒一軒のお宅が素敵に手入れをされ、観光客の皆さんにもおもてなしをして、会話を通して交流を図っていました。

**個人の庭も企業の庭も公開するしくみは、住民を繋ぎ、結果的に町の収入アップにも繋がっていると思いました。**

- ・無料で個人の庭を公開する事で、庭を公開してくれる人に特別な報酬があるわけでも見学料で町が収入を得るわけでもないけれど、町のイメージアップや何度も町に訪れる仕掛けになっていて、結果的には町の収入アップに繋がっていると思いました。
- ・企業の場合は、その企業のイメージアップに繋がりが、庭を見せて貰ったから、その商品を選択しようと思う動機になります。個人の場合は、見に来る人がいるから庭を綺麗に保とうと思う意志にも繋がる、良いしくみです。

**なぜ、小布施には人が集まるのか？  
そこには、しかけがあるからだと思いました。**

- ・町並み全体に調和があり全体の空気感(これまでの歴史を積み上げた)がありました。今は少なくなった、日本の原風景を醸し出しているように感じました。
- ・歴史を積み上げただけではあれば、どこの地域も小布施のように訪れたいはずなんです。
- ・なぜ、小布施には人が集まるのでしょうか。そこにしかけがあるからだと思いました。
- ・約50年近くをかけた町並みづくり。これは、50年近く前に基本計画を立て整備されたものもあれば、ここ数年のなかで整備されたものもありました。一つのコンセプトのもと、つながって作り続けられているということが素晴らしいです。

## 【視察③：浄光寺スラックラインパーク】

▶ 国内最大級のスラックライン施設として 2013 年に開設。

《学んだ点》 寺子屋活動や五感体験活動の意義、屋外空間の活用方法、新たなスポーツ文化導入の経緯、青少年育成や地域活性化との関係性

《ご案内》 林映寿さん（スラックライン仕掛人 浄光寺副住職）

林文映さん（浄光寺住職）

木下晴稀さん（スラックライン 2016 世界チャンピオン）

○ここにスラックラインパークを作ったのが 2013 年、5 年前になります。

○演技をしてもらった木下君、パークができ中学 3 年生から来始めて 1 年半でプロに、2 年目に世界選手権に出て、3 年目にチャンピオンになったんですよ。

○大人ができるのは、アンカーを作って、ラインを張ること。そこまでしか大人は出来ません。あとは地元の子ども達が、楽しみながら上達していくのに任せるんですよ。

○スラックラインは、若い人だけのスポーツではなく、お父さんお母さんも、世代を問わず一緒に集えるのが良いところだと思います。

○昨年ワールドカップを小布施に誘致し、3 日間で 3 万人が訪れました。スラックラインの大会は人も呼べるし、地元も活性化しますよ。



《参加者の感想》

**いつでも気軽に立ち寄って、やりたい人が、やりたい時に、思う存分楽しめる場づくりを学びました。**

・いつでも気軽に立ち寄って、やりたい人がやりたい時にやりたいただけスラックラインを楽しめるようにした点がとても素晴らしいです。先に上達した人が、年齢関係なく先生になって、教えていくしくみもありました。楽しさを町に広める様、学校などに寄贈もしてなど、アイデア全てがスラックラインの盛り上がりにつながっていました。

**町にある地域資源(新しいもの・古くあるもの)が違和感なく融合していました。**

由緒あるお寺と、最先端のスポーツとが、違和感なく融合していました。

## 【まちづくり交流会】

- ▶ 住民主体で活発な活動を行っているリーダーやキーパーソンと夕食を兼ねた交流会・意見交換会。

《学んだ点》 住民が主体となる意味、活動スタート・展開の経緯、今後の構想、小布施まちづくりの実情、小規模自治体におけるまちづくり及び住民活動全般の課題・ノウハウについて

《交流団体》 活動団体「いいだん会」／活動団体「日本笑顔プロジェクト」より6名  
(日本笑顔プロジェクト)  
林さん、谷口さん、木下さん\*、高見沢さん\*、篠塚さん  
(いいだん会) 深川さん  
\*「日本笑顔プロジェクト」・「いいだん会」両団体に所属

### ～活動概要～

活動団体「いいだん会」

設立年：1990年ごろ

人数規模：30人前後

目的・理念：小布施町の商工会青年部を卒業した有志で、小布施町を盛り上げるため、そして何より自分たちが楽しむために結成。物産を通じた交流・地域活性化を進める。結成当初は現市村町長もメンバーに加わり活動。

活動内容：小布施町内各種イベントでの露天販売、全国各地との交流、代表的な交流イベントとして「諸国物産・わらしべ市」など

活動団体「日本笑顔プロジェクト」

設立年：2011年

人数規模：約50人

目的・理念：一人ひとりが笑顔を持って、家族、友達、職場、地域に笑顔をつなげる。

活動内容：東日本大震災を機に、浄光寺副住職の林映寿氏が発起人となって設立。震災翌月から女川町を中心に、炊き出し、支援物資の提供を継続的に実施してきた。現在も物産イベント等を通じて女川町との交流が続いている。

### ○活動団体「いいだん会」の皆さんより

- ・20数年前に始まったグループで、物産交流などに今も熱く力を入れています。
- ・もともとは商工会から始まったのですが、その後、面白そうだねと、農家やサラリーマンなど色々な人が参加するようになり、まちを盛り上げる活動をしようとなったんです。
- ・とにかく、自分が楽しんでやること、というのが合い言葉です。それが若い人たちにも受け継がれています。
- ・体力勝負で大変な時も、とにかく楽しむ、ということで乗り切っています。
- ・女川も良い物産品があると思うので、今後、販売イベントなどで交流できると良いですね。

### ○活動団体「日本笑顔プロジェクト」の皆さんより

- ・縁があり、日本笑顔プロジェクトとして、女川町に復興支援をさせていただいています。
- ・女川町へ物資を運ぶのは、最初は準備も運転手も大変でしたが、その後もご縁が大事だという気持ちと、自分達も楽しいので女川に通っています。
- ・スタートしてから次第に仲間が増え、現在60人程の協力者がいます。
- ・今後も、スラックラインも含めて、良い関係や交流を継続して行きたいです。
- ・いろいろテーマを変えながらも、楽しみながら、交流を続けていくことが大事だと思っています。



《参加者の感想》

**文化、風土、ヒトの違いを再確認。  
なぜ人口1万人のまちに年間 100 万人の観光客が訪れるのかを知ることができました。**

・小布施の町民はおもてなしを大事にする

これは決して女川の町民ができていないのではなく、町の大部分の人が自然体(あまり気を張らない)でどんな時でも町に来てくれた人に接しているからだと感じました。

・町のイベントは役場主導ではなく、町民主体で運営している

女川の場合、イベントは町が考え町民(各種団体)がお手伝いで基本的に無料です。小布施のイベントは自分たちが楽しむため、イベントを見に来た観光客に楽しんでもらうことをメインに考えて町がサポートしています。したがって、きっちりとしたサービスでイベント収入を確保することになっています。

・小布施の人はイベントや活動は誰かがやってくれるのを待つのではなく、やりたい人は自分のできる範囲で無理なくはじめ、一緒に行動してくれる人をどんどん集める。

女川では、アイデアやイベントを考えた人が運営してくれる人を探すので、活動してくれる人が限定され、イベントが楽しいと感じていないかもしれない。

農耕民族と狩猟民族の違いなのかは定かではありませんが、話をしていてとても心地が良い町だと感じました。

**「暮らし」のなかに窮屈があっては続けていくのは困難です。「自然体」でいながらも、そこに活動団体の「存在価値」がしっかりと位置づけられていました。**

- ・団体の大小にかかわらず、ことのはじめは、「言い出しっぺ」がいる、ということを変更して再確認しました。言い換えればリーダーということになります。
- ・強いリーダーシップを発揮される方には、それを動かす強い推進者、協力者も現れてくるということも再確認できました。
- ・各団体に共通していることは、「こんなことやりたい」「こんなのがあったら」という気持ちでした。当然、自分が楽しくなければ何事も起こさずという気持ちにもなりません、そこに共感が生まれ、集う人たちが「自分のこと」そして「みんなのこと」ひいては「地域のこと」続いては「もっと大きなくりで」となっていきます。計画的に「こうあらねばならない」ということではなく、どちらかという派生的に地域の力となり、地域のつながりを形成しているのだと感じました。そして、それがまた、自分の、自分たちの力となり、さらに発展していく原動力となるのだと感じました。

## 【視察④－１：オープンガーデン（中心部２）】

▶ 宿泊先から徒歩圏内の小布施町中心部オープンガーデン。

《オープンガーデン No28：【和風庭園】信州の四季を体感できる やすらぎ空間を目指して》  
・宿泊先のオープンガーデン。宿泊者を迎える雰囲気がガーデンからも感じられる。



《オープンガーデン No30：【和風庭園】 4代、100年にわたり大切に受け継ぐ日本庭園》  
・広い立派な庭。長くこの家で育まれた樹木が庭の風格を感じる。



《オープンガーデン No31：【和風庭園】 壁一面に広がる一株のバラと芝の庭》

- ・ツルバラが壁一面に延びて庭のシンボル。
- ・広々とした芝生にパラソルとイス。ティタイムを楽しむことがうかがえる。



## 【視察④－２：オープンガーデン（北部）】

➤ 小布施町北部オープンガーデン。

《オープンガーデン No46：【洋風庭園】ナチュラルガーデン》

- ・ 田園地帯にあるログハウスの周りに広がるガーデン。ブルーベリーやハーブ、キウイフルーツなど、たくさんの植物の他、可愛らしい雑貨もあり、立ち寄りたくなる雰囲気。
- ・ パーゴラの下にはイスとテーブルがありティタイムも楽しめそう。
- ・ 週末には押花教室と輸入雑貨のお店が開かれる。



## 【視察④－3：オープンガーデン（北部）】

▶ 小布施町北部のオープンガーデン。

《オープンガーデン No47：【和風庭園】築140年の古い庭》

※“おぶせ”オープンガイドブック（2017.3発行）での記載はありません

- ・古い歴史をもつ田園風景に囲まれたワイナリー。工場見学・試飲・ショッピングが楽しめる。
- ・和風洋風両方のガーデンが調和してワイナリーならではの雰囲気を楽しめる。
- ・ワイナリーからのメッセージが印象的（下記は駐車場のメッセージ）  
「よくぞ諦めずに私達の蔵を見つけ出してくれました 私達のはのどかな田園風景と農村に  
囲まれひっそりと佇むあか抜けないワイン蔵です」



## 【視察④-3：オープンガーデン（西部）】

➤ 小布施町西部のオープンガーデン。

《オープンガーデンNo14：【洋風庭園】 広い庭はコーナーごとに 表情を変えて楽しむ》

《ご案内》刈山恭子さん

- 農家を継いで、栗や果樹（りんご など）づくりをしています。
- 農繁期のため、庭のお手入れはできていない状況ですがどうぞご覧ください。庭で緑を使って楽しんでいます。
- りんご（シナノゴールド）はお仕舞の時期で売り物にならないのでどうぞ木からもいで下さい。（栗の選別作業後の）小さな栗ですが、よろしければどうぞお持ち帰りくださいね。

※NHK「小さな旅」“お庭御免”～長野県小布施町～10/28 放送に出演

栗の時期には周りの人が手伝いに来てくれ収穫をしている。

父親が「時の番人」という言葉で生業を表しており、今は「自分が“時の番人”」。



## 【視察⑤：フローラルガーデン・6次産業センター「小布施屋」】

### [フローラルガーデン]

- 1980年代から官民一体の取り組みとして始まった「花のまちづくり」の一環として、花づくりに必要な技術、デザイン、モデルなどの情報を発信し、楽しみながら花について勉強できる施設として平成4年に開園。

《学んだ点》町内の景観・住民活動への寄与、オープンガーデンとの連動性

### [6次産業センター「小布施屋」]

- フローラルガーデンに隣接し、小布施の農産加工品が揃う直売所として平成11年にオープン。
- 新鮮な野菜・果物のほか、新たな小布施の味（加工品）としてオリジナルブランド「小布施屋」を展開。

《学んだ点》地元の産業振興の狙い、「6次」に込めた主旨・コンセプト

《ご案内》深川悠さん（一般財団法人小布施町振興公社事務局次長）

#### ○小布施のまちづくりの経緯

40年前から進められており、5つのポイントがあります。

- ①人口対策…公営住宅の建設や積極的な宅地造成・分譲を行ってきました。
- ②北斎館の建設…当初は周りに何も無く“田んぼの中の美術館”と言われていましたが、町民の意識喚起や町の集客を考え、官民連携してまちづくりを進めてきました。
- ③地場産業…特産品“栗”を使った栗菓子の老舗で小売り・飲食サービスをスタートしました。このような取り組みから、お客様を迎える町に変わっていききました。
- ④町並修景事業…北斎館周辺を居住と商売を併せた空間として町並みを修景しました。周辺の景観との調和と美しいまちにするため、基準や条例、相談所を整えました。
- ⑤花のまちづくり…「景観」を意識した町民が歩調を合わせるように「花」のまちづくり活動を展開していききました。併せて、花苗が購入でき、ガーデンづくりの参考になる場「フローラルガーデン」を開園しました。「花仲間コンベンション・全国ガーデニングサミット」というイベントも開催したんですよ。

このような取り組みを情報発信して、知名度が少しずつ高まり、来町者が増えることに繋がっています。

#### ○小布施のまちづくりは第2ステージへ

自立・自律していくため、4つの協働（町民、地場企業、町外企業、研究機関や大学）を進めながら、中心部を通る国道403号を車から人が中心となるデザインを検討中です。

そして、里山・里川の特性や、北斎館周辺のみならず農村部ならではの「なつかしい ほんっとする やすらぐ いやされる」を活かして活性化を目指しています。その中で、6次産業センターを設立して、小布施町のブランドづくりを進めているところです。



[フローラルガーデン]





[6次産業センター「小布施屋」]



## 【レストラン「OBUSE 花屋」(昼食)】

- 小布施の新鮮な農産物や特産品にこだわり、洗練された料理を提供するレストラン (小布施振興公社経営)。6次産業センターに隣接する。
- 設計は「女川温泉ゆぼっぼ」のタイルアートを手掛けた水戸岡氏。一次生産物を食文化まで高め、質の高い空間で提供することで地域ブランドを形成するストーリーを、味わいながら学ぶ。



《参加者の感想》

小布施屋エリアには、大きく成長した木々と花で彩られた素晴らしいガーデン「フローラルガーデン」がありました。

- ・小布施屋エリアでは歴史のある木々の大きさに驚きました。
- ・フローラルガーデンは広いので、ゆったりした気分です。みんなでぐるりと探索して来ました。花の色や形が上手に組み合わせられ、素晴らしいガーデンでした。

古きよきものを残しつなげていくために、そこには最先端の技術や、人々の新しい感覚が散りばめられている町でした。

- ・小布施屋エリア(飲食・お土産店等)では、古き良き建築物を残しつつも、都会人にも受け入れられるような施設内部のリノベーション、接客や商品のクオリティの高さが大都市におけるそれと比較したときに全く遜色がないので、太刀打ちできるのだと思いました。
- ・歴史・もの・ことを、それをどのような形で後世につないでいくか。今を生きる人との融合が素晴らしい形で展開されているところに、大きな魅力を感じずにはられません。古きよきものを残しつなげていくために、そこには最先端の技術や、人々の新しい感覚が散りばめられている、と深く感じました。

## 【視察⑥住民活動団体「おぶせエバーグリーン」】

- ▶ 行政がほぼ関与せず組織を運営し拠点整備もできて勢いづいているパワフルな町内女性団体「エバーグリーンマーケット」

《学んだ点》活動スタートの動機、組織づくりのポイント、活動の継続・拡大のため苦労した点やノウハウ

《ご案内》深川悠さん（一般財団法人小布施町振興公社事務局次長）

《交流団体》住民活動団体「おぶせエバーグリーン」

～活動概要～

設立年：2014年

人数規模：7人

目的・理念：日々の暮らしを大切に、自分たちで居心地の良い暮らしをつくり、人とつながり、知恵や想いをシェアする。皆で決めて皆で実行。

活動内容：手作り雑貨や小物などを販売するエバーグリーンマーケット等のイベント開催、誰にでも開かれた活動交流拠点「トポス」の運営

《エバーグリーンマーケット 参加者より》

竹内淳子 さん（代表）

梅嶋つかさ さん（小布施町出身、東京からのUターン）

清水 さん（東京から嫁いできた）

○きっかけ

- ・5年前玄照寺のお祭りに出てみたいと思った気持ちから女性5名程度で始めました。現在、当初メンバーの殆どはいないんですよ。
- ・活動場所をどこにしようかと思っていた所、古い家が見つかりました。内部を自由に改装して良い物件で、プロの手を借りず、自分たちで出来るところから始めようと思ったのです。特に、ロケットストーブを置きたくてみんなで作りました。
- ・小布施は町の規模感が丁度良く、居心地が良い町だと思う人が多いです。仲間で楽しもうと、声を掛けられたら手伝うよ、という感じで始まっていますよ。

○活動の展開

- ・情報発信できる場、交流できる場、お裁縫などの作り手が育つ場、安心安全な食生活（低農薬の野菜、皮と実の間に栄養がある など）の発信する場を作りたかったんです。
- ・春～秋に、月1回「えばぐり市」を神社で開催しています。15店舗程が参加しています。
- ・2年間は長野県元気づくり支援金から助成をもらって活動していました。今年は自力でどうにか進めているところです。
- ・子ども食堂「おぶせっこ食堂」  
親が働く家庭が多いので、月1回月曜日、小学校の子ども達を集めて子ども食堂を開いています。費用は月300円程度です。
- ・いろいろやっていますが、実は、まちづくり活動をしている気持ちは無いんです。

○活動が続いていくわけ・活動の目標

- ・自分達が楽しいと思うことをみんなでしています。
- ・小布施の町ならではの人の付き合い方があるのではないかと思います。住んでいる人達は、おせっかいの人が多いいですよ。世代が違って、人を迎え入れる、人と仲良く暮らすことが上手く、居心地の良い町であることが一番です。
- ・目標は…何とはなくはあるけれど、はっきりしている訳でもないです。その時にベストなチョイスをしていければ良いし、途中で変わっていくのも実は楽しいです。これまで5年間きちっとした目標は無く、ここまできています。
- ・多分、まわりも、自分も、縛られないで自由に参加していることが、長続きのコツかもしれませんね。





《参加者の感想》

**日々の暮らしを大切に、自分達で居心地の良い暮らしをつくる活動に共感しました。**

- 日々の暮らしを大切に、自分達で居心地の良い暮らしをつくる活動拠点「トポス」の素敵な空間で人と繋がり、知恵や想いをシェアするという理念がとても素敵です。
- 講座「くらしの教室」は、定員 10 名のそう多くはない人数というのも良いです。私も参加したいと思う講座ばかりで、女川にもこのようなイベントがあればいいのにと思いました。
- そして何と言っても「エバーグリーンマーケット」という大規模なマーケットにワクワクします。日々の暮らしに楽しみを見つけられるような多くの出店数。7人のメンバーの人との繋がりで、このような大きなイベントが出来るようになるって凄いです。小布施のまちを元気にする活動で、自分達も楽しむ所に共感しました。

**チームみんなの努力が実を結んだマーケットの開催、素晴らしいです。**

- 「エバーグリーンマーケット」が 5 年前に発足し、今では出店者もお客さんも町内外から大勢訪れ大盛況との事。チームみんなの努力が実を結んだのだと思いました。

**楽しく活動している皆さんが輝いていました。**

- この活動を通して一人一人が生き生きとしているのが伝わってきました。
- 女川町でも手作り、もの作りをしている人が沢山いるので町おこしの事ができないか、観光客だけでなく町民が集まることのできる場づくりが出来ないか、考えたいです。

《参加者の感想（研修全体）》

身の丈にあった活動を継続しながら、日常的に楽しめる町民主導のイベントをしていきたい。

＜オープンガーデン＞

・女川のまち、店、会社、家がもっとオープンで人が集まれる場所になってほしいです。

＜住民活動について＞

・町主導から町民主導のイベントにシフトしたい  
大きなイベントではなく、日常的に小さなイベント(自分たちが楽しんで活動しているもの)が数多く開催され、それが1つ2つと一緒になり、最終的に大きなイベントになるような活動をしていきたいです。

・無理はしない。できないことをやろうとせず、身の丈にあった(自分ができる範囲の)活動を継続的に行っていく  
自分のできないことは誰かと一緒に活動をすすめていきたいと思います。

＜全体を通して＞

・小布施に負けないくらい、素晴らしい活動ができる場所と、そして人とのつながりをたくさん作っていききたいと思います。

日々の暮らしに楽しみを見つけながら“ハナ友の輪”を広めたい。

＜町並み修景エリア・オープンガーデン＞

・小布施のまち歩きで、色んなシチュエーションで女川と重ね合わせて見て歩きました。色んなアイデアやヒントを得たので、活動に生かしていきたいです。

・また、地区単位での花のまちづくり強化が必要で、たねだんごの講習も地区参加にしたら良いのではと思いました。地区公園の花壇づくりが広まって行くよう、“ハナ友の輪”を広めたいです。

＜おぶせエバーグリーンの住民活動＞

・私達のメンバーも日々の暮らしに楽しみを見けることが好きで、それが元気の源です。

＜全体を通して＞

・小布施を視察して、改めて女川のまちづくりを考えました。小布施の教科書のような取り組みとまではいかなくとも、私達が楽しい！と思うことから取り組んでいきたいと思います。

女川にしか出来ない事、良い所、面白い所探したい。

＜地域資源の発掘＞

・小布施は小さな町でしたが、歴史、文化が今でも古さを感じさせず残っている事に驚きました。人口は震災前の女川とほぼ同じとか。  
・pH4にも及ぶ強酸性の川であるため、川には魚もいないとのこと。そのため、田圃が無く米も取れないとはいっても、酒造会社が3社も有って小布施の景観に溶け込んで営業していました。このような土地に合った、栗やりんご、ぶどうを上手に育て、町を活性化してきたことを知りました。

＜オープンガーデン＞

・小布施町の様に何歳になっても体を動かせる畑やガーデニングがあると良いと思います。

＜全体を通して＞

・思いを新たに、女川を見つめ直す機会が出来ました。  
・女川にしか出来ない事、良い所、面白い所探しをしたいです。

女性目線で可愛らしく、町民が集える場所をつくりたい。

＜町並み修景エリア・オープンガーデン＞

・個人宅に止まらず、民間事業者の庭も少しずつオープンガーデンへと発展できたら良いと思います。

・女性目線で、まちに可愛らしい花のプランターやハンギングバスケット等を飾ったら、もっともって花好きの方達が訪れてくれるのではと思っています。

＜住民活動＞

・町の中心部でも町民が出店できる場所ができると思いと思っています。

・観光客だけでなく、町民の方達が楽しく集まりやすい場所づくりも考えていきたいです。

＜全体を通して＞

・女川の町が益々魅力ある町になって行くよう協力して行きたいです。

・次は、小布施の皆さまを女川でお迎えしたいと思いました。

**漁師町女川と農業の町小布施。  
女川らしい気質を活かした活動ができるはず。**

**<町並み修景エリア・オープンガーデン>**

- ・女川は定年後の生活を送っている人が多いので、オープンガーデンを導入したら、話相手が欲しい人の話し相手づくりや話題づくりになり、植物を育てる事が好きな人の生きがいつくりや町の景観づくりに繋がると思いました。

**<浄光寺スラックラインパーク>**

- ・プレイする為、応援する為、観戦する為に、女川に来ればできるという環境づくりをして、女川に人を集める為にスポーツを活用するのは、とてもいい考えだと思います。
- ・やりたい人が、やりたい時に、人目のつくところできるようにし、見た人もやりたくなるようにしたら、競技人口を増やせて盛り上がると思います。女川の小中学校はバスケットが強いので、公園に3on3ができるバスケットゴールも設置したらスポーツで町に人が来るきっかけになるのではないのでしょうか。

**<全体を通して>**

- ・小布施が好きで、お互いに協力し合い、肩肘張らずにやれる人がやれる部分をやれる分だけやって、全てが上手くまわっているのが、どの視察先にも共通していました。
- ・見栄を張らず協調性のある農家の人に比べて、漁師の家は見栄っ張りだったり負けず嫌いだったりします。女川ではコンテストをして一攫千金を狙うというのが似合うのかもしれません。

**自分のできること、自分のできる範囲で活動していくことが大切です。まちづくりは、一人ひとりのこの小さな積み重ねなのだと思います。**

**<住民活動>**

- ・自分が窮屈にならず、集う人たちも自然体での関わりを広げ、「これをやってみよう」という自分に素直に向き合い、発信し続けたいです。

**<全体を通して>**

- ・全国では知恵を絞った町づくりが進められています。女川はハード面が整いつつあり、どのように機能していくかが課題となってきます。
- ・その時に問われてくるのが、「この町の未来像」「私たちの望む暮らし」が、そこに暮らす人たち、関わる人たちにどのように共有できているか。町づくりを自分ごととして捉える気持ちの醸成・成長をさせていく取り組みもしかけていかなければならないと思います。
- ・町の再興に10年、コミュニティの形成に10年がかかります。はじめは一握りの小さな一歩から、一人、二人と広がり、人と人が繋がって始めて、「私は女川が大好きです」と自然な流れが生まれてくるのだと思います。強いリーダーシップ、そしてそこに結集する力。「私、女川が大好きです」の一人として、たくさんの人たちと繋がっていきたいです。

■小布施町交流団体の連絡先・概要

<p>おぶせオープンガーデン</p>	<p>全体的な窓口：小布施町役場産業振興課商工振興係          電話：026-214-9104          住所：〒381-0297          長野県上高井郡小布施町大字小布施 1491 番地 2          ホームページ：  <a href="https://www.town.obuse.nagano.jp/site/opengarden/">https://www.town.obuse.nagano.jp/site/opengarden/</a></p>
<p>日本笑顔プロジェクト</p>	<p>窓口：浄光寺 林映寿さん          電話・ファックス：026-247-3924          住所：〒381-0211          長野県上高井郡小布施町雁田 676          ホームページ：  <a href="http://www.jyokoji.jp/index.php/egao">http://www.jyokoji.jp/index.php/egao</a></p>
<p>いいだん会</p>	<p>窓口：深川悠さん          （連絡先：小布施振興公社）          住所：〒381-0209          長野県上高井郡小布施町大字中松 496-1          電話：026-242-6601 ファックス：026-242-6601</p>
<p>おぶせエバーグリーン</p>	<p>代表：竹内淳子さん          住所：〒381-0201          小布施町大字小布施 1004          ホームページ：  <a href="http://evergreenmarket.net">http://evergreenmarket.net</a>（問い合わせページあり）</p>

<視察受け入れ窓口・コーディネート・案内ガイド>

一般社団法人小布施町振興公社 事務局次長 深川悠 氏  
 〒381-0209 長野県上高井郡小布施町大字中松 496-1  
 TEL:026-242-6601 FAX:026-242-6601